

## 数字で見る学校図書館

蔵書数  
(令和元年12月末時点)

**39,410冊**

(1人当たり約17冊)

今年度貸出総数  
(令和元年12月末時点)

**19,954冊**

(町立小中学校合計)



ピッ!

◀学校図書館の貸出は全てバーコード。図書だけでなく、子どもたちも貸出用QRコードを持っています。蔵書もデータベースで管理されています。IT時代の「風」は学校にも届いています!

### 本は人生を豊かにする

#### 学校図書館に寄せる町の想い

大磯町のように専任の学校図書館司書が毎日配置されている自治体は県内でもまだまだ少数です。

学校図書館は、専門職がいることで初めて、その機能を発揮します。



近年、学校図書館には「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能が期待されますが、専門職がいるからこそ、町立図書館や郷土資料館等と連携し、町の資源を有効活用もできるのです。

「子どもたちのニーズに応え、先生の授業を支援できる学校図書館」、「毎日会いに行ける学校図書館」大磯町立学校ならではの魅力の一つです。

もっと本が読みたくなる

小中学生が集まる

# 学校図書館



問 学校教育課 内線325

皆さんにとって、子どもの頃の学校図書館はどんな場所だったでしょうか?  
「本を借りる所」「古い本ばかり」「どこにあったかな?」  
今、大磯町の小中学校には学校図書館司書が配属され、子どもたちにとって居心地のいい空間づくりに活躍しています。  
本号では、ただ本を読むだけの場所ではない、子どもたちにとって魅力あふれる学校図書館の取組みを紹介します。

### 国府中学校

活字が苦手な子もいるので、表紙に興味をそそられるような、手に取りやすい本をアピールしています。  
おうちに帰る前に、ちょっと立ち寄りたい場所”にしていきたいです。



私のおすすめ...

**白熱! 国中ビブリオバトル**  
ビブリオバトルとは、「読んでもらいたい本」「私のおすすめ本」を持ち寄り、決められた時間内でおすすめ本の魅力を伝えます。その中で、最も読みたい本についてパトラー(紹介者)を含め、聴衆に投票してもらい、チャンプ本を決定する書評会です。  
12月に開催した国中ビブリオバトルでは7人のパトラーが参加し、投票者の席は満席、立ち見で参加している子どももいました。



◀読んでみたい!と思った本に投票



学校図書館司書 野上さん

### 大磯小学校

子どもたちが相談に来たら、いつも「収穫があったぞ」と思ってもらいたいです。読書や調べもの等、学校のスタートラインで良い思いをしてもらえれば、その子の人生はきっと豊かになるはず。一生図書館を利用してくださる人になってほしいと願っています。



学校図書館司書 近藤さん

▶読むことの楽しさを育てることも、司書の大切な仕事の一つ。読み聞かせやブックトークで、子どもたちの関心を高めます。



インターネット全盛時代ですが、複数の人の手で編集された図書は、今なお確かな情報源の一つです。様々なメディアの特性を知り、必要な情報を提供できるのは専門職の司書だからこそ。学校図書館はその時「情報センター」になります。

子どもたちの「ひらめき」を支援

◀3年生「百科事典の調べ方」学習にて。全員が課題に取り組めるよう授業支援!



### 国府小学校

子どもたちには読む力の必要ですが、まずは読書の入り口として、リクエストのある本をなるべく購入しています。



学校図書館司書 篠原さん

**いつも居心地の良い場所に**  
中休みには約50人が本の貸し借りに、7、8人が図鑑等を読みに来っており、多くの子どもたちが利用しています。  
「本を読まなくても、ここにいると本があったって気持ちの良い場所だった」と記憶に残るといいなと思います」と篠原さん。

気になる本は積極的にリクエストしよう!



▶雑誌のバックナンバーが詰め込まれていた棚を「クイズの引出し」に活用。中にはレベル別にクイズが入っています。



◀先生おすすめの本や季節に合った本をピックアップ



### 大磯中学校

中学生一人ひとりの読書量は様々ですが、今年度すでに300冊を超えている子どももいるんです。司書として自分の好きなジャンル以外にも目を向けてほしいので、展示にも一工夫しています。



学校図書館司書 伊勢田さん

▶内容をふせた本に図書委員からのおすすめメッセージを載せ、思わず手に取りたくなる仕掛けを演出!



取ってもらえるチャンスが生まれます。  
他にも、家庭科での料理本の紹介や美術科の授業に資料が活用される等、授業と直接つながれるのは、学校図書館ならではの魅力です。

**「一歩」身近になる環境づくり**  
館内展示は、その時々々の授業やイベントに合わせて企画しています。運動会や文化祭、交換留学生が来た際の国際理解等、子どもたちが関心を持つジャンルを中心に配置を工夫します。  
また、読書週間では、朝読書の時間に図書委員会と連携し、移動図書館を実施。あまり本に馴染みのない子どもにも手に取ってもらえるチャンスが生まれます。